

月刊 青戸

第5号

平成16年2月

編集
オフィス・オレンヂ

デビューして一番の緊張!

藤岡市で千昌夫ショーに計4回の飛び入り出演

今年デビュー10周年を迎える青戸健ですが、本人曰く「こんなに動揺したことは今までなかった」という出来事が、去る1月21日にありました。

それは、群馬県藤岡市で行われたJ.A.たのふじ主催の『千昌夫』ショーでのこと。青戸は、勉強のために新曲「望郷哀歌」をプロデュースして下さった千さんのステージを拝見するべく、会場に足を運んでいたのですが、ショーの途中でマネージャーの方に呼び出されたのです。何だろう? と思っていると、千さんが歌う機会を作ってくれるので、そのつもりでいるようにとのこと。昨秋の新曲発表コンサー

ト・ツアーにゲスト出演していただき、同じステージに立つたことはありましたが、この日は千さんのショー。しかも会場には目も肥えたたくさんファンが詰めかけています。どうしていいかわからない



状態で、たった1曲を歌うのに、まさに無我夢中です。極度の緊張のため、どんな歌をうたったかハッキリ憶えていないほどでしたが、その夜と翌日の昼夜3公演でも歌う機会をいただき、憧れの千さんのショーに出演するという夢のような体験に大感激。しかも、紹介の際には「吉幾三に続く2番目の弟子、青戸健です!」という光栄な言葉。キャリアも実績も千さんには遠く及ばない青戸ですが、尊敬する大先輩に一步でも近づけるよう精進を続けることを胸に誓い、群馬を後にしました。

お待たせしました!
青戸健の公式ホームページ開設です!!
その名も…

「標準化」

プロフィール、ディスコグラフィ、スケジュール、など青戸健に関する情報は、全てとは言いませんが、大体はわかります。

皆様からのご意見やご要望にお応えしながら充実した内容にして行きますので、是非ご覧になって下さい。

アドレスは

<http://www.aotoken.com/>

アナタのご訪問をお待ちしています!

アンコール公演で、仁志陽介さんに届けと熱唱!

前号で昨年11月に福井で行われた、仁志陽介さんの20周年記念追悼コンサートに出演したことをお伝えしましたが、主催の倉内あさゑさんをはじめとする仁志さんファンの方々にお招きいただき、1月にアンコール公演を行って来ました。8日から10日までの2泊3日。青戸は倉内さんたちの、仁志さんと歌への愛情の深さに感動し、身の引き締まる想いで、ステージを務めました。



ありがたいことに「これからも応援するよ」との言葉もいただき、新たなやり甲斐を最大のお土産に、帰途に就いたのでした。

2月の主なスケジュール

- 1日 「みんなの歌謡曲」
カラオケコンテスト決勝 ゲスト出演
- 8日 千葉テレビ「カラオケトライアル」
ゲスト出演
- 22日 NHKラジオ「サンデージョッキー」
(予定)

前略 青戸です!

新年早々の1月3日、

八戸市内の第二ワシントンホテルで、八戸市立長者中学校の同期会が開かれました。私もこの中学の出身なので、当日は旧友に会える嬉しさと、なんとなく照れくさい気持ちを胸に出席してきました。中には大人になつてから何度か会つた仲間もいましたが、多くはなんと39年ぶりの再会です。甘酸っぱい恋の記憶な



ども思い出しながら会場に到着すると、長い年月が経っているというのに、みんな昔のままの印象で、懐かしいこと懐かしいこと! ああ、憧れのあのコはどこに?なんて思っている、女性に話しかけられました。
「福井(本名です)さんでしょう? 私、中学の時、あなたにいじめられたのよねー」
エ、そんなことがあつたっけ? 人間の記憶って都合の悪いところは忘

れるようになってきているみたいです(笑)。

初めて参加した同期会。みんなとてもいい表情を見せてくれ、私はほんの短い時間に40年近い年月を越えて、歌手になることを夢見た少年の頃の気持ちに戻っていました。お蔭様でその夢を叶えることはできましたが、夢はさらに膨らむ一方で、尽きることはありません。恩師や友だちと過ごしながら、そんな夢に向かつていく力を新たにもらつたような気がします。ありがとうございます、そして仲間たち!



青戸健的生活

その四 雪



仕事先でのスナップです。子供みたいだと思われるでしょうが、雪が大好きな私は、降り積もった新雪を見つけると飛び込まずにいられません。その清らかな白さに心が洗われます。大人になれば汚れてしまいそうな時もありますが、いつも雪のような心を忘れたくない青戸です。

青戸健に関するお問い合わせは...

K・Yプロモーション
0476-24-1258 ky@aotoken.com

直言エッセイ

ちょっと、なまって
もの申す!



「大人のはなし」

今年も成人の日全国各地で二十歳の若者が暴れました。しょうがねえなあと思えますが、一方的に怒れないのは、成人一年生の彼らより、何年も何十年も先輩でありながら、大人と呼べないような人間が世の中にあふれているからです。成人式を台無しにするなんて大変な不道徳ですが、街に出ればマナーを守れない大人があつちにもこつちにも。若者を正そうと思つたら、大人が手本にならねばなりません。きゆうくつなことを言うようですが、ゆるんだ社会の縮図が荒れる成人の日なのではないでしょうか?